



図 5. 口永良部島 火山性地震及び微動の日報回数(2004年1月~2005年12月)
2005年12月15~28日は京都大学のデータによる。

おり、噴煙高度は火口縁上概ね 200~300 m で推移した(最高は 11 月 2 日及び 11 月 19 日の 800 m)。火山性地震の発生状況に特段の変化はなく、火山性微動は少ない状態で経過した。

●口永良部島 (30°26'36"N, 130°13'02"E (古岳))

火山性地震はやや多い状態が続いており、月回数は 11 月 205 回、12 月 169 回(前期間は 9 月 201 回、10 月 164 回)であった¹⁰⁾(図 5)。震源は新岳火口付近のごく浅い所と推定される。火山性微動は少ない状態で経過した。監視カメラ(新岳の北西約 4 km に設置)による観測では、噴気は観測されなかった。

¹⁰⁾ 12 月 15~28 日は京都大学のデータによる。

▲諏訪之瀬島 (29°38'18"N, 129°42'50"E (御岳))

噴火が観測された日が 24 日間あった(11 月 1~5 日、7~10 日、12 日、18~19 日、23~28 日、12 月 9~12 日、20 日及び 22 日)。12 月 22 日には爆発的噴火が 1 回観測された。

噴煙の最高は 11 月 2 日に観測された火口縁上 1,500 m であった。その他の噴火では、噴煙の高さは火口縁上 300~1,000 m であった(11 月 2 日及び 3 日は監視カメラ(御岳の北北東約 25 km の中之島に設置)、その他は十島村役場諏訪之瀬島出張所による)。12 月 22 日の爆発的噴火の際は噴煙の状況は不明であった。

同出張所によると 11 月 2 日、4 日、18 日、23 日及び 12 月 9~10 日に集落(御岳の南南西約 4 km)で降灰があった。また、12 月 20 日には集落では降灰はなかったが、切石港(御岳の南約 3.5 km)で少量の降灰があった。

火山性微動は、11 月 2 日夕方から 11 日未明にかけて断続的に発生し、4 日から 7 日朝にかけて振幅のやや大

きなものが観測された。その後、継続時間の短いものが 11 月 13~14 日にやや多く発生し、11 月 19~20 日には連続的に観測され、11 月 23~28 日及び 12 月 9~10 日には連続的なものも含めてやや多く発生した。火山性地震は 11 月 27~28 日に多発し、日回数はそれぞれ 27 日 88 回、28 日 117 回であった。その他の日は少ない状態であった。

(文責: 気象庁火山課 長谷川嘉彦)

○教員公募について

【東京大学地震研究所】

1. 公募人員: 助手 1 名
2. 所属: 火山噴火予知研究推進センター
3. 研究分野: 火山地質学分野。地震研究所では、火山噴火に対応して現場で噴出物を調査し、それらの地質学的・岩石学的情報を他の観測結果や噴火プロセスのモデリングと有機的に結びつけ噴火現象を理解する研究を今後の火山学の中心的な研究課題の 1 つと位置づけている。このような地質学的・岩石学的野外調査に基づく火山学研究を積極的に推進する若手研究者を募集する。本公募では、上記のような火山噴火に対応する調査のみならず、火山に関連する大型プロジェクト、さらに火山地質学・火山岩岩石学に関する大学院生教育に対しても寄与できる人材が望まれる。
4. 採用予定時期: 決定次第できるだけ早い時期
5. 応募資格: 着任時に博士の学位を有する者
6. 任期について: 本研究所の教員の任期に関する内規により、満 55 歳を超えることとなる者の所属する分野の職に任期を定め、任期は 5 年以内とする。再任については本研究所教授会の承認を得た場合は 1 回限り可。(但し、東京大学教員の定年に関する規則に定めるところの定年による退職の日を越えることはできない。)尚、詳細については、問い合わせ先に照会のこと。
7. 提出書類:
 - (1) 履歴書(市販用紙可)
 - (2) 業績リスト(査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む)
 - (3) 主要論文の別刷り 3 編程度(コピー可)。
 - (4) 研究業績の概要(2,000 字程度)
 - (5) 今後の研究計画(2,000 字程度)
 - (6) 応募者について参考意見をうかがえる方(2 名)の氏名と連絡先と e-mail
8. 応募締切: 2006 年 3 月 17 日(金) 必着
9. 問い合わせ先:

東京大学地震研究所地球ダイナミクス部門
 小屋口剛博
 TEL: (03) 5841-2499 FAX: (03) 5802-3391
 E-mail: tak@eri.u-tokyo.ac.jp

10. 応募書類提出: 〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1
 東京大学地震研究所 人事掛宛
 封書を用い、表に「火山地質学分野 助手 応募
 書類」と朱書し、書留郵便で送付して下さい。
 (上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月5
 日送信しました)

○非常勤研究員公募のお知らせ

【北海道大学地震火山研究観測センター】

1. 職名: 非常勤研究員
 募集人数: 若干名
2. 任用期間: 原則として採用日から3年間。
 ただし契約は1年度毎。
3. 応募資格:
 - (1) 採用時に博士の学位があること
 - (2) 採用年度の4月1日現在で35歳未満
4. 募集分野: 固体地球物理学
5. 報酬: 学歴によるが月額30万円程度

 (短時間勤務職員として採用するために社会保険関
 係は適用されない)
6. 着任日: 2006年4月1日以降できるだけ早く
7. 研究費: 研究員には研究費を手当てします
 (平成17年度の場合年間61万円)
 - (1) 履歴書
 - (2) 研究業績一覧
 - (3) 自薦の場合: 研究の抱負(A4紙1枚程度)
 他薦の場合: 推薦書
9. 提出先: 060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
 北海道大学地震火山研究観測センター長 笠原 稔
 (非常勤研究員応募書類と朱書のこと)
10. 応募の締め切り: 2006年2月15日必着
11. (参考)
 地震火山研究観測センターでは、以下のテーマを
 主として研究していますが、それ以外の研究をやり
 たい場合でも、地震火山研究観測センターの教員に
 ご相談ください。極力、ご要望に応じます。なお、北
 海道大学地震火山研究観測センターでの研究教育活
 動や現スタッフについてはホームページ
<http://www.eos.hokudai.ac.jp/>
 をご覧ください。
 ・微小地震活動および地殻変動連続観測による地殻
 活動モニタリング

- ・オホーツクプレート周辺のサイズモテクトニクス
- ・海底地震観測による千島海溝から日本海溝での海
 溝型地震活動調査
- ・北海道およびその周辺の海陸統合データによる海
 溝付近での地震波速度構造調査(屈折法、反射法、
 トモグラフィー)、およびQ-構造調査
- ・火山噴火の前兆現象
- ・火山活動のダイナミクス
- ・重力・地震観測による地殻構造探査および島弧周
 辺のテクトニクスの研究
- ・電磁気観測による地下構造探査および地殻活動モ
 ニタリング

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月23
 日送信しました)

○研究官公募

【国立科学博物館地学研究部】

1. 採用人員 研究官1名
 2. 研究分野 火山岩
 3. 職務内容 火山岩に関する調査研究、標本の収集及
 び管理、成果の公表と教育普及活動
 4. 勤務地 独立行政法人国立科学博物館分館
 (東京都新宿区百人町3-23-1)
 5. 応募資格 博士の学位を有し(平成17年度内に取
 得見込みの者含む)、平成18年4月1
 日で40歳未満の者
 6. 採用予定時期 平成18年3月中
 7. 提出書類
 - (1) 履歴書(写真貼付)1部
 - (2) 研究業績目録 1部(展示・教育普及活動の経
 験があればその一覧も添付)
 - (3) 主要論文3部の別刷り、またはコピー 各1部
 - (4) 現在までの研究概要(A4紙1枚に要約)1枚
 - (5) 今後の研究の抱負(A4紙1枚に要約)1枚
 - (6) 博物館活動全般に関する抱負(A4紙1枚に要
 約)1枚
 - (7) 推薦書(または応募者について照会できる方
 の氏名、連絡先)1枚
 - (8) 研究費などの取得状況 1部
- 当館では、個人情報保護の観点から、応募書類は次
 のとおり取扱いますので、予めご了承ください。
1. 提出書類は選考以外の目的には使用しません。
 2. 提出書類は、選考後適正に処理します。なお、書
 類の返却を希望する場合は返却先を記した封筒を
 同封してください。
8. 面接等

審査の過程で面接及び口頭による研究内容等の発表をお願いすることがあります。その際の旅費・滞在費は応募者の自己負担といたしますのであらかじめご了承ください。

9. 応募期間 平成 18 年 2 月 28 日必着。封筒の表に「研究官応募書類」と朱書きし、書留で郵送すること。
10. 応募書類提出先および問い合わせ先
〒169-0073
東京都新宿区百人町 3-23-1
独立行政法人国立科学博物館分館
地学研究部 研究職員選考小委員会
松原 聡
TEL 03-3364-2311 (代表)
FAX 03-3364-7104

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 1 月 27 日送信しました)

○教員公募のおしらせ

【東京大学地震研究所】

1. 公募人員: 助手 1 名
2. 所 属: 地球流動破壊部門
3. 研究分野: ナノスケール固体地球科学
粒界や転位などに代表される多結晶体の原子スケールでの性質は、地球内部のレオロジー、電気的性質、元素の存在状態などに決定的影響を与えている。このような「ナノスケール」での物理・化学的性質の解明を通して地球内部物性を研究する若手研究者を募集する。地震研究所の観測各分野(地震学、電磁気学、測地学など)および物質科学分野(岩石学、地球化学など)と協力して、地球内部構造とダイナミクスを理解するための新しい視点を開拓していく意欲のある人材が望まれる。また、大学院生教育にも積極的に寄与することが望まれる。
4. 採用予定時期: 決定次第できるだけ早い時期
5. 応募資格: 着任時に博士の学位を有する者
6. 任期について: 本研究所の教員の任期に関する内規により、満 55 歳を超えることとなる教員の所属する組織(分野)の職に任期を定め、任期は 5 年以内とする。再任については本研究所教授会の承認を得た場合は 1 回限り可。(ただし、東京大学教員の就業に関する規程に定めるところの定年による退職の日を超えることはできない。)なお、詳細については、問い合わせ先に照会のこと。
7. 提出書類:
 - (1) 履歴書(市販用紙可)

- (2) 業績リスト(査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む。)
- (3) 主要論文の別刷り 3 編程度(コピー可)
- (4) 研究業績の概要(2,000 字程度)
- (5) 今後の研究計画(2,000 字程度)
- (6) 応募者について参考意見をうかがえる方(2 名)の氏名と連絡先と e-mail

8. 公募締切: 2006 年 3 月 17 日(金) 必着
9. 問い合わせ先:
東京大学地震研究所地震予知研究推進センター
上嶋 誠
TEL: (03) 5841-5739
E-mail: uyeshima@eri.u-tokyo.ac.jp
10. 応募書類提出先:
〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1
東京大学地震研究所 人事係 宛
封書を用い、表に「ナノスケール固体地球科学 助手 応募書類在中」と朱書きし、書留郵便で送付してください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 1 月 30 日送信しました)

○教員公募のおしらせ

【金沢大学自然計測応用研究センター自然計測研究部門地球環境システム分野】

1. 概 要

当センターは平成 14 年度に「自然と人間活動に関わる諸環境問題の解明・解決」を目的として金沢大学に設立された(<http://k-inet.ee.t.kanazawa-u.ac.jp/>)。また、同年度より、金沢大学が進めている 21 世紀 COE プログラム「環日本海域の環境計測と長期・短期変動予測」(<http://www.nst.kanazawa-u.ac.jp/21COE/index.html>)の基幹的研究機構としての役割も担っている。今回、当センターでは COE 拠点形成の一環として、また次期プロジェクト推進のために、下記の要領で専任教員を公募します。

研究・教育分野としては地球科学・地球環境学を対象とするが、特に、野外観測・調査に基づいて、地球化学的手法やシミュレーションを用いた地球環境解析と予知・予測に関する研究の展開が期待される。また、現在検討中の「ユーラシア東部における現在の地表プロセスと環境変動」に関する次期プロジェクトに積極的に関与することが望まれる。

教育においては金沢大学自然科学研究科地球環境学専攻(理学部地球学科)(<http://earth.s.kanazawa-u.ac.jp/>)に属し、当該専攻(学科)の教育を分担する。

2. 機関名 金沢大学
 3. 部署名 自然計測応用研究センター 自然計測研究部門 地球環境システム分野
 4. 機関種別 国立大学法人
 5. 所在地 920-1192 石川県金沢市角間町
 6. 地域 北陸
 7. 職種 助手
 8. 勤務形態 常勤
 9. 人員 1
 10. 研究分野 理学 地球環境学
 11. 応募資格 博士の学位を有すること
 12. 募集期間 2006年4月20日(当日消印有効)
 13. 着任時期 可能な限り、早い時期
 14. 応募書類
 - (1) 履歴書(市販 A4 用紙、写真添付)
 - (2) 研究業績目録(原著論文(査読の有無を明記)、総説・報告書等、著書、学会講演に区分)
 - (3) 代表的論文の別刷り又はコピー 5 編以内
 - (4) これまでの研究概要と今後の教育・研究計画及び抱負(1,600 字以内)
 - (5) 応募者の研究経過等について意見を伺える方の氏名と連絡先(2~3 名)
書類提出先 920-1192 石川県金沢市角間町
金沢大学自然計測応用研究センター 柏谷健二
封筒の表には「応募書類在中」と朱書きし、郵便の場合には書留にすること
 15. 連絡先住所 920-1192 石川県金沢市角間町
 16. 担当者役職 金沢大学自然計測応用研究センターセンター長
 17. 担当者 柏谷健二
 18. e-mail kashi@kenroku.kanazawa-u.ac.jp
 19. TEL 076-264-6531
 20. FAX 076-264-6531
- (上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月16日送信しました)

○教員公募のおしらせ

【東京工業大学 大学院理工学研究科 地球惑星科学専攻】

1. 募集人員
地球惑星科学専攻 助手 1名
専門分野: 地質学, 岩石学, 鉱物科学, 地球化学のいずれかの分野。
本専攻に属する他の教員と連携して研究を行う方を希望します。また、学生の教育にも熱意をもって取り組んでいただける方を求めます。
2. 応募資格: 博士の学位を有する者(平成17年度内

- に取得見込みの者を含む)
3. 任期: 本学の規則に基づき、任期は5年、審査を経てさらに3年の再任が可能です。
 4. 着任時期: 採用決定後、できるだけはやい時期を希望します。
 5. 提出書類
 - (1) 履歴書(市販のもので可)
 - (2) これまでの研究・教育の実績(2,000 字程度)
 - (3) 研究業績リスト
 - A. 査読付き原著論文
 - B. プロシーディングス、総説など
 - C. 著書、その他特記すべき出版物
(いずれも和文のものは和文で表記すること)
 - (4) 主な原著論文の別刷(コピー可) 3 篇以内
 - (5) 今後の研究・教育の計画・抱負(2,000 字程度)
 - (6) 応募者について参考意見をうかがえる方(2名)の氏名および連絡先(所属、住所、E-mail)
 5. 応募締め切り: 2006年3月31日(金) 必着
封筒の表に「助手公募書類」と朱書きして、宅配便等で送付してください。
 6. 提出書類の送付先及び問い合わせ先
〒152-8551 東京都目黒区大岡山 2-12-1 12-13
東京工業大学 大学院理工学研究科 地球惑星科学専攻 廣瀬 敬
E-mail: kei@geo.titech.ac.jp, Tel: 03-5734-2618

地球惑星科学専攻教員の構成(2006年度)

教授:

- | | |
|-------|---------------------------------|
| 本藏 義守 | 惑星磁場成因論, 地殻電磁誘導論, 地震発生予測論 |
| 長井 嗣信 | 宇宙空間物理学 |
| 丸山 茂徳 | 野外地質学, 変成岩岩石学, 惑星テクニクス, 地球史 |
| 高橋 栄一 | 地球惑星物質科学, 高温高压実験, マグマの起源, 火山学 |
| 河村 雄行 | 鉱物物性学, 計算無機化学, 実験地球物理化学, 環境物質科学 |
| 中澤 清 | 太陽系起源論, 惑星形成・進化論 |
| 綱川 秀夫 | 古地磁気学, 月・惑星磁場探査 |
| 井田 茂 | 太陽系・系外惑星系形成論 |
| 廣瀬 敬 | 地球深部物質学, 超高压高温実験 |
| *加藤 學 | 惑星探査(連携, JAXA) |

助教授:

- | | |
|--------|----------------------|
| 平田 岳史 | 同位体宇宙年代学, 宇宙化学, 分析化学 |
| *北村 良実 | (連携, JAXA) |

電波天文学
(公募中)

(公募予定)

助 手:

専攻助手 (本公募), 松島政貴, 小林直樹, 岡元太郎, 榎森啓元

COE21「地球」助手 ※生駒大洋, 西原 遊, 村上元彦, 大森聡一 (地惑専攻所属)

理学研究流動機構助手 小宮 剛 (地惑専攻が支援専攻となっています)

※COE21「地球」が平成16年度に採択され, 本専攻が中心となり他専攻・他研究科とともに活動しています。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月17日送信しました)

○シンポジウムのご案内

岡山大学地球物質科学研究センターでは, 21世紀COEプログラムの一環として以下のような国際シンポジウムを開催いたします。

Misasa International Symposium MISASA-2

“The Evolution of Early Stage of Earth and Solar System”
25-26 February, 2006, Kurayoshi, Japan

シンポジウムの詳細は当センターウェブサイトの <http://www.misasa.okayama-u.ac.jp/sympoFY05/> のページからご覧いただけます。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月23日送信しました)

○Bernard J. Wood 教授による集中講義開催のお知らせ

(院生に限らず, Wood 教授の研究内容に関心のある皆様の受講を広く歓迎)

タイトル: “Geochemistry and origin of the Earth’s core”

講 師: Bernard J. Wood 客員教授

講義日程: 2005年2月20日(月) 10:00-12:00

14:00-16:00

2005年2月21日(火) 10:00-12:00

14:00-16:00

COE 地球: 国際講義-1 1単位 (東工大・大学院理工学研究科・地球惑星科学専攻)

教 室: 東京工業大学大岡山キャンパス

石川台6号館 404講義室

主な講義内容

- 1) Theory of crystal-melt partitioning of trace elements.
- 2) Defects and trace element partitioning in perovskites
- 3) Core formation and the Oxidation State of the Earth.

Wood 教授はマントル鉱物の熱力学, 元素分配, 地球中心核の組成とその起源などに関する一連の研究で世界的にもっとも著名な研究者の一人です。Wood 教授は

2005年夏に英国のブリストル大学からオーストラリアの Macquarie 大学に移動しました。今回は当 COE の招聘により東工大に3週間滞在され, 大学院生や若手研究者を対象に集中講義を引き受けてくださいました。

参加者へ:

参加希望者は以下を記入して2月10日までにメールでお申し込みください。院生に限らず, Wood 教授の研究内容に関心のある皆様の受講を広く歓迎します。

宛 先: coe21@geo.titech.ac.jp

氏 名:

所 属:

学部生・大学院生の場合は学年:

単位取得希望の有無:

メールアドレス:

この件に関するご連絡先: COE 地球事務局

Tel 03-5734-3536

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月26日送信しました)

○【シンポジウムのお知らせ】

藤井直之先生が2006年3月末をもって名古屋大学を定年退職されます。

皆様ご存知の通り, 藤井先生は, これまで「地球惑星科学」の非常に幅広い分野で活躍されてきました。学問の細分化が年々進み, 研究者が狭い専門分野に閉じこもりがちになる中で, 藤井先生の間口の広さや知見の膨大さは大変貴重な存在であったと改めて感じます。

そこで, 今回, 以下の研究シンポジウムを企画しました。このシンポジウムでは, 藤井先生をはじめとする講演者の方々に, 地球惑星科学の様々な分野における現在までの到達点や問題点, 今後の方向性などについて講演して頂き, 議論を行いたいと思います。

このシンポジウムが, 現在の地球惑星科学を見つめ直し, 様々な分野間の交流を深める機会となれば, 藤井先生の退職にあたって何よりのはなむけになると思います。

ぜひ, 地球惑星科学に関わる多くの方々にお集まり頂きたく, ご案内申し上げます。

シンポジウム「地球惑星科学を語ろう」

日 時: 2006年3月3日(金) 13:00-18:00

場 所: 名古屋大学環境総合館1階レクチャーホール

<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/contact/map.html>

参 加 料: 無料

講演者 (予定):

栗田 敬 (東京大学地震研究所)

野津憲治 (東京大学大学院理学系研究科)
 平田隆幸 (福井大学工学部)
 中野 司 (産業技術総合研究所)
 熊谷博之 (防災科学技術研究所)
 平原和朗 (京都大学大学院理学研究科)
 山岡耕春 (東京大学地震研究所)
 藤井直之 (名古屋大学大学院環境学研究科)

終了後に懇親会を予定しています。人数把握のため、懇親会への参加を希望される方は2月17日(金)までに鷺谷 (sagiya@nagoya-u.jp)へご連絡下さい。

シンポジウム世話人

平原和朗 (京都大学大学院理学研究科)
 平田隆幸 (福井大学工学部)
 山岡耕春 (東京大学地震研究所)
 田中明子 (産業技術総合研究所)
 鷺谷 威・渡辺俊樹 (名古屋大学大学院環境学研究科)

このメールは転送自由です。関心をお持ちの方にご周知頂ければ幸いです。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月27日送信しました)

○お知らせ

第17回国際堆積学会議の巡検・ショートコース・ワークショップ登録締切延長のお知らせ

この度、諸般の状況を考慮して、巡検(韓国5、台湾2を含む計36コース)、ショートコース(6テーマ)、ワークショップ(2テーマ)の登録締切を2月28日まで延長いたしました。

研究発表要旨の投稿締切の2月28日を含め、あと1ヶ月となりました。

登録はウェブサイト (<http://www.isc2006.com>) からできます。

皆様のご参加をお待ちしております。

2006年1月30日

第17回国際堆積学会議 組織委員会

第17回国際堆積学会議

(17th International Sedimentological Congress)

主 催: 国際堆積学協会・日本堆積学会・日本地質学会
 開催日程: 2006年8月27日(日)~2006年9月1日(金)

場 所: 福岡国際会議場

重要日程:

1. 登録・要旨提出開始: 2005年10月1日
 申し込み先 (URL): <http://www.isc2006.com/>
2. 巡検・ショートコース・ワークショップ登録締切: 2006年2月28日
 (延長いたしました!!)
3. 講演要旨提出締切: 2006年2月28日
4. 講演要旨受理通知: 2006年4月15日
5. ソーシャル・プログラム、宿泊予約、各種支払い締切: 2006年5月1日

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月30日送信しました)

○日露オフィオライト・シンポジウム

日本学術振興会日露二国間共同研究「コリヤーク山地環太平洋造山帯の古生代変成オフィオライトと中生代付加体の成因」(代表: 石渡 明)のシンポジウムが開催されます。講演・討論は全て英語で行われます。地質学、岩石学、地球化学、テクトニクスなど、関連分野の研究者の方々の積極的なご参加を歓迎いたします。

なお、出席予定の方は、連絡先(石渡)まで、メール、または電話、ファクスで2月24日(金)までにお知らせいただければ幸いです。

詳細は日本火山学会ホームページ

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/kazan/J/doc/JROSP2006.html>
 をご覧下さい。

日 時: 平成18年3月4日(土) 12:30-18:00

シンポジウム後に懇親会

場 所: 東京大学海洋研究所講堂

(〒164-8639 東京都中野区南台1-15-1)

<http://www.ori.u-tokyo.ac.jp/map/index.html>

連絡先: 石渡 明

〒920-1192 石川県金沢市角間町

金沢大学理学部地球学科

Tel: 076-264-6522, -6513, Fax: -6545

E-mail: geoishw@kenroku.kanazawa-u.ac.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月2日送信しました)